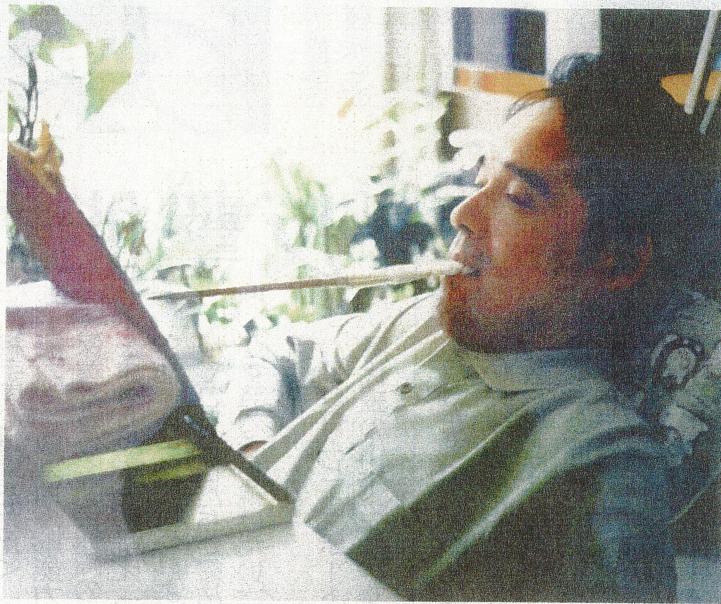


□ 筆で描くやさしい世界



筆をぐわえて絵を描く生前の書類など。1981年（昭和56年）5月1日登録）
—曾根紀行さん提供（2024年5月1日登録）

筆を口にくわえて絵を描いた綾部市出身の口筆画家・曾根豊さん(2001年死去)の作品展が3日、同市西町2のギャラリーカフェ「日々」で始まった。高校生の時、負傷して首から下の体を動かすことができなくなつたが、最期まで描き続けた。約30点を展示。豊かな色彩と緻密でやわらかな画風から、曾根さんの強い精神力とやさしい人柄が伝わってくる。14日まで。

綾部出身画家曾根豊さん遺作30点

「筆画家、曾根豊さんの作品
「蘭」(1981年)
いざれど凌駄市内で

A traditional Japanese ink painting (suiboku-ga) of a still life arrangement. A blue and white porcelain vase sits on a light-colored surface against a yellowish-orange background. The vase contains a arrangement of flowers and branches, including pink and white blossoms, green pine needles, and red buds. The painting uses fine ink outlines and light washes of color.

に年賀状の返事を出すため、曾根さんは69年、初めて筆をくわえ「あけましておめでとう」の文字を書いた。絵を描き始めるきっかけは、82年に京都市内で初の個展を開くなど、52歳で亡くなるまで「筆画家として活躍。他界後の作品展は今回が3回目だ。

繊細なタッチで花や動物、人物、風景などを描いた。水彩を中心で、油彩や鉛筆画もある。作品は今後、



口筆画家、曾根豊の作品「猫」
(一〇〇〇年)

さんの作品を集めた最後の展示会になる可能性があるといふ。

作品展を企画した曾根さんの「おい、紀行さん(58)は筆をくわえて絵を描く姿を見て、私たちも頑張って生きていかなければならないと」。叔父の絵は多くの人を勇気づけてくれる」と話している。午前10時